

2021年10月29日

## 調査レポート

# 2021年7～9月期のGDP(1次速報)予測

## ～感染第5波の拡大と自動車減産などの影響で再びマイナス成長に陥る～

調査部 主席研究員 小林真一郎

11月15日に内閣府から公表される2021年7～9月期の実質GDP成長率は、**前期比-0.5%(年率換算-2.2%)**と2四半期ぶりにマイナス成長に陥る見込みである。夏場の感染第5波の拡大と4回目の緊急事態宣言の発出によって経済活動が抑制されたことに加え、半導体不足やグローバルサプライチェーンの混乱の影響で自動車の生産が急減したことが影響した。

中でも個人消費の落ち込みの影響が大きい。個人消費は、緊急事態宣言発出などの影響によって対面型サービスを中心に夏休み需要が低迷し、お盆休みの時期の帰省が手控えられたことに、供給制約による自動車販売の落ち込みが加わり、前期比でマイナスになったと予想される。また、住宅投資、設備投資、公共投資も減少した見込みである。外需においては、輸出、輸入とも減少する中、外需寄与度は若干のプラスになったと考えられる。

名目GDPも前期比-0.6%(年率換算-2.2%)と3四半期連続でマイナスになった可能性がある。GDPデフレーターは前年比-1.3%と、国際商品市況の上昇などを受けた輸入物価の上昇を反映し、マイナス幅が拡大したと予想される。

	2020年			2021年			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	前期比(%) 年率
実質GDP	-7.9	5.4	2.8	-1.1	0.5	-0.5	-2.2
同 (年率)	-28.1	23.2	11.9	-4.2	1.9	-2.2	
同 (前年同期比)	-10.1	-5.5	-0.9	-1.3	7.6	1.5	
内需寄与度 (*)	-5.1	2.7	1.8	-0.8	0.8	-0.6	-2.5
個人消費	-8.3	5.3	2.3	-1.3	0.9	-0.7	-2.8
住宅投資	0.6	-5.7	0.0	1.0	2.1	-1.1	-4.4
設備投資	-6.0	-2.1	4.3	-1.3	2.3	-2.3	-8.8
民間在庫 (*)	0.1	-0.2	-0.5	0.4	-0.3	0.1	0.6
政府最終消費	0.7	2.8	1.9	-1.7	1.3	0.5	2.1
公共投資	3.0	0.6	0.9	-1.1	-1.7	-1.9	-7.4
外需寄与度 (*)	-2.9	2.6	1.0	-0.2	-0.3	0.1	0.3
輸出	-17.5	7.3	11.7	2.4	2.8	-2.4	-9.1
輸入	-0.7	-8.2	4.8	4.0	5.0	-2.9	-11.1
名目GDP	-7.6	5.4	2.3	-1.1	-0.1	-0.6	-2.2
同 (年率)	-27.1	23.6	9.7	-4.3	-0.5	-2.2	
同 (前年同期比)	-8.9	-4.5	-0.8	-1.5	6.4	0.2	
GDPデフレーター (前年同期比)	1.4	1.1	0.1	-0.2	-1.1	-1.3	

(注)内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度  
(出所)内閣府「四半期別GDP速報」

需要項目別の動向は以下の通りである。

① 実質個人消費（前期比－0.7%）

感染第5波の発生を受けて7月12日に東京都に4回目の緊急事態宣言が発出され、その後、対象地域が拡大され、期限も延長された。このため、夏休み需要が抑制され、お盆休みの時期の帰省が手控えられたことで、対面型サービスが低迷したと予想される。さらに、半導体不足やグローバルサプライチェーンの混乱の影響で自動車が供給制約に陥り、販売が落ち込んだ。このため、個人消費は前期比マイナスとなったと予想される。

② 実質住宅投資（前期比－1.1%）

住宅着工戸数が横ばいとなる中、実質住宅投資は、最近の増加が一巡しマイナスに転じたとみられる。

③ 実質設備投資（前期比－2.3%）

業績改善を背景に企業の設備投資意欲は底堅さを失っていないものの、一時的に前期比マイナスに転じた可能性がある。7～9月期の資本財（除く輸送機械）の出荷も前期比で減少している。

④ 実質在庫投資（前期比寄与度＋0.1%）

製造業では在庫積み増し局面に入っているうえ、前期の落ち込みの反動もあって、実質GDP成長率に対する前期比寄与度はプラスになった公算が大きい。

⑤ 実質政府最終消費支出（前期比＋0.5%）

ワクチン接種が本格化したことにより前期比で増加したと見込まれる。

⑥ 実質公共投資（前期比－1.9%）

高水準で推移しているが、建設業の供給力の限界もあり、前期比マイナスが続いたとみられる。

⑦ 外需（前期比寄与度＋0.1%、実質輸出：前期比－2.4%、実質輸入：同－2.9%）

実質輸出は、海外経済の回復ペースの鈍化や、自動車輸出の減少を中心に前期比で減少に転じたと予想される。一方、内需の弱さを反映して、輸入の落ち込み幅の方が大きかったため、外需の前期比寄与度は小幅ながら前期比でプラスに転じた見込みである。

⑧ GDPデフレーター（前年同期比－1.3%）

GDPデフレーターは、国内物価の安定と国際商品市況の上昇などを受けた輸入物価の上昇を反映し、前年比マイナス幅が拡大したと予想される。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。